



雨の日のある一冊 その感想を少し

校長 中山 克彦

2年前も同じようなことを学校だよりで書きましたが、小学4年生の時に担任の先生から「晴耕雨読」という言葉の意味（晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家にこもって読書をする。悠々自適の生活を送ること。）を教わりました。以来、しとしと雨が降る日に読書をするのはちょっとした私の楽しみになっており、今年の梅雨も読書がよく進みました。

その中で、久しぶりに読んだ一冊があります。作詞家、阿久悠さんの「『企み』の仕事術」という本です。一読してつらつらと考えたことを書いてみたいと思います。

“上野発の夜行列車 おりたときから 青森駅は雪の中
北へ帰る人の群れは誰も無口で 海鳴りだけをきいている”

石川さゆりさんが歌った「津軽海峡・冬景色」は、阿久悠さんの作詞です。この有名な歌い出しは、東京の上野駅から夜行列車に乗り、雪が降る青森県・青森駅で降りて、黙ったまま搭乗橋を渡って本州から津軽海峡を隔てた北海道・函館駅に向かう青函連絡船へと乗り継いで行く人々の描写といわれています。そして、映画的手法で歌詞が作られているといわれる作品でもあります。

これら、五千曲以上の作詞を手がけ、「北の宿から」「勝手にしやがれ」「UFO」等、数多くのヒット曲を次々と世に送り出した阿久悠さんは、自分の仕事について、次のような言葉で語っています。「作詞家としての創作も楽しかったが戦略を練るのも同時に楽しかった。創作と戦略が一体となって、どうすれば大きなムーヴメントになるか、時代の騒ぎになるかということを常に考えていた。」「仕事は不思議なもので、どんなに見えない努力や工夫も見る人はしっかりと見ている。手を抜いていることは瞬時にわかる。だから、僕はそこまで望まれてはいないものでも、自分のために、常に相手の期待よりも上を行く成果を出そうとする。」

この本の魅力は、戦略的に、しかも楽しみながら仕事をするものの価値を教えてくれるところだと思います。あらためて紹介される歌詞を懐かしく、作り手の戦略に感心しながら読んでいくと、あっという間に時間が過ぎることでした。

阿久さんは2007年に永眠されましたが、作曲と歌を担当した五木ひろしさんと「愛する国と愛する人へのラブレター」として、「契り」という歌を遺しました。私は、はるか未来の国、未来の人々への呼びかけだというこの一節が好きで、ふと思い出すことがあります。

“朝の光が海を染める 生きる夢に満ちて まぶしい願いがきらめく いのちのように

流れは今も清らかだろうか 子供はほがらかか 人はいつまでも桜のように微笑むだろうか”

つらいことがあったとき、自分がつまらない存在だと落ち込んだとき、この本を開くと、「人生は誰しも限られている。その中で自分が何を為し得るか。人の世に何を遺せるか。たとえ、大きなことはできなくても、好きで選んだこの職を楽しみ、そしてやるべきことをやり遂げることが大切なのだ。」そんなことを語りかけてくれるような気がします。

読後の余韻に浸ると、「さあ、次はどの本を読もうかな。」と心の中でつぶやき、背伸びをしてにやにやと天井を見上げました。なにしろこれから読む本を吟味するのも読書の大きい楽しみだからです。

住用地区スポーツ交流大会



5月17日(金)、住用地区の小学5・6年生と中学1～3年生が集い、スポーツ交流大会を行いました。ミニバレーを通して、初めて会った友達とも声をかけ合って、交流を深めました。笑顔あふれるナイスプレーがたくさん見られました。

市集落の「浜下れ」開催！！



『ムシケラシ』

5月19日(日)に、市の「浜下れ」が開催されました。船団パレード、舟こぎ競争、餅投げなど、様々なイベントがあり、伝統行事の「ムシケラシ」も行いました。二人で、三味線演奏もがんばりました。市集落の皆さんと、楽しいひとときを過ごすことができました。

修学旅行思い出たくさん

5月28日～30日の3日間、住用中、東城中、市中の3校合同で修学旅行に行ってきました。長崎、佐賀、熊本で思い出をたくさん作ってきました。



その他多彩な行事



交通安全教室



奄美学・三味線



生徒総会



避難訓練



八月踊り伝承会



調理の日

〔7月行事〕

- 3日～5日 ふるさと体験留学
- 5日(金) 夏のふるさと学舎
- 12日(金) ハブ咬傷講習
- 13日(土) PTA主催遠泳大会
- 19日(金) 終業式

